

考えたことを守ろう

校長 森 和 久

10月には学習発表会を開催いたしました(2年生は11月に実施)。保護者の皆さまには、ご参観、ご協力をいただき、ありがとうございました。今回は、新型コロナウイルス感染症対策のため、例年のような形では実施できず、学級ごとに学習の成果を発表する形にさせていただきました。きらびやかな衣装や学年が全員そろっての合唱などはありませんでしたが、それぞれ映像やICTを使うなど、工夫がみられたのではないかと思います。制約がある中で、何ができるかを考えた末の発表会ではありましたが、ある意味このような形が、子どもの「学習」を発表する本来の姿なのかなという気もいたしました。来年度もコロナ禍の状況が劇的に改善されるということはないかもしれませんが、そのような中でも、何をすべきで、何ができるかをよく考え、学校の教育活動を行って参りたいと考えます。

さて、11月の生活指導のめあては「考えたことを守ろう」です。毎年言っていますが、「自分が考えたことは守る」という特性は、長い人生を見通したときに、とても重要です。何かに大きな成果を上げた人たちの多くが、(表現の仕方は異なるのですが)小さなことを積み重ねたこと、自分が決めたことを継続したことがあったから今の成果があるという趣旨のことを口にされています。「自分が考えたことを守る」「自分が決めたことをやり通す」「自分を裏切らない」「『やめておこう』と思う自分に打ち勝つ」ということは、何かを成し遂げるためにはとても大切です。小学生のうちからこの特性を身に付けることを意識することは意義があり、生活指導のめあてとして掲げているわけです。

しかし、多くの方が「自分が考えたことを守る」ことが大事だと言われるのは、逆にそれがとても難しいことであるからだとも考えられます。大人でもやめようと思っただけでもやめられないことや、始めようとしたけど

続かないということは、しばしばあります。何かを成し遂げた偉大な人でも、成し遂げたことがら以外のところは「三日坊主ですし、全くだらしなないです」ということは往々にしてあるようです。



ですから、「考えたことを守る」ことは大切なことなのですが、「子どもは考えたことを必ず守るべきである」とあまり厳しく考えすぎない方がよいと思います。今は、「考えたことを守る」特性を身に付けるために、様々なことにチャレンジしたり、挫折したりすることをくり返し体験する時期であり、長い目で見守ることが大切なのだと思います。

「自分が考えたことを守る」特性を身に付けるために有効だと思うことは、次のことです。

- ・ 「守るべきこと」を人に与えられるのではなく、自分で考えて決めること。
- ・ 「守るべきこと」を、できるだけ簡単なこと、分かりやすいことにすること。
- ・ 成果があがったかどうかでなく、「守ったかどうか」を自分で評価するようにすること。
- ・ 大人は、成果ではなく、「守ったこと」を大いに褒めること。

その結果の成果を求めずに、「考えたことが守れたかどうか」だけを大事にして、「守れた」ことを大いに褒めてあげ、自己評価できるようにし、小さな成功体験を積み重ねることで、「自分が考えたことを守る」特性は育っていくのではないかと思います。三日坊主で終わったことも、自分が「守るべきこと」を模索するための糧ととらえることが大事だと思います。

